

秋田わか杉っ子ふれ合い充実プロジェクト事業



児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



潟上市立東湖小学校



秋田市立将軍野中学校



大館市立東館小学校



横手市立横手南中学校
横手市立横手北中学校



秋田県立秋田高等学校



北秋田市立森吉中学校

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、秋田県わか杉っ子ふれ合い充実事業の実践地域をはじめとする県内の小・中学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内の各小・中学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

目 次

【小学校】

☆秋田わか杉っ子ふれ合い充実事業実施地域の取組事例

- ・ 潟上市立東湖小学校 1
- ・ 美郷町立仙南小学校 2

☆児童会によるいじめ未然防止のための取組事例

- ・ 大館市立東館小学校 3
- ・ 男鹿市立五里合小学校 4
- ・ 横手市立増田小学校 5

☆児童会によるいじめ根絶のための取組事例

- ・ 能代市立第四小学校 6

【中学校】

☆秋田わか杉っ子ふれ合い充実事業実施地域の取組事例

- ・ 潟上市立天王中学校 7
- ・ 美郷町立美郷中学校 8

☆生徒会によるいじめ未然防止のための取組事例

- ・ 鹿角市立花輪第二中学校 9
- ・ 横手市立横手南中学校 10
- ・ 横手市立横手北中学校 10

☆生徒会によるいじめ根絶のための取組事例

- ・ 北秋田市立森吉中学校 11
- ・ 秋田市立将軍野中学校 12

【高等学校】

- ・ 秋田県立秋田高等学校 13
- ・ 秋田県立雄物川高等学校 14

- あとがき 「いじめを許さない文化」をつくる取組 15

【小学校】

(小学校低学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、みんな力を合わせていじめをなくします。
- 三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。
- 五 私たちは、いろいろな人たちとなかよく、みんなを支える一人になります。

(小学校中・高学年用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじめをしません。
- 二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切に、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえない存在として大切にします。
- 五 私たちは、生活の仕方や文化、もの考え方などにちがいがあっても進んで交流し、みんなを支える一人になります。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|---|
| 学 校 名 | 潟上市立東湖小学校 | 児童生徒数 | 125人 | 学級数 | 7 |
|-------|-----------|-------|------|-----|---|

1 活動名 明るく楽しい学校を目指した自主的・主体的な児童会活動

2 活動の趣旨

児童の自発的・主体的な集団活動及び交流活動等を通じた取組により、児童相互の良好な人間関係の構築及び望ましい規範意識を育成し、いじめのない学校づくりを目指す。

3 活動の概要

(1) 「天王地区ふれあい宣言（案）」の策定

天王中学校区の三校（天王小学校、東湖小学校、天王中学校）の児童会・生徒会で、「天王地区ふれあい宣言（案）」を今年度策定することにした。天王中学校生徒会が中心となり、策定に向けて小・中連携した取組を進めている。

- ・ふれあい宣言のための児童アンケート実施（3～6年）[8月下旬]
 - ・ふれあい宣言のための児童生徒会議への参加（6年企画委員）[9月10日天王小学校]
 - ・中学校から提案された「天王地区ふれあい宣言（案）」について各学級で検討[10月上旬]
- 11月に天王中学校生徒会が宣言を再提案する集会を開催し、宣言を採択する予定である。

(2) 企画委員会による新たな取組

企画委員会で、今年度全校参加型の活動を月1回計画することにした。事前にポスターを掲示して参加を呼びかけ、全校のみんなが楽しく交流できる企画を考えている。参加は自由であるが、毎回多くの児童が参加し交流している。

- ・かっぱ渡り（5月28日 グラウンド）
- ・こおりおに（6月25日 グラウンド）
- ・全校ドッジボール（9月23日 グラウンド）



【企画委員会主催の全校ドッジボール】

(3) 縦割り班活動での取組

例年、なべっこ遠足、ふれあい給食などを縦割り班活動で実施している。今年度は異学年交流を積極的に推進するために、月1回第2水曜日昼休みを「全校で遊ぶ日」に設定した。12班の班長が遊ぶ場所や内容を決め、当日給食の放送時に全校に連絡する。回を重ねるごとに、遊びを通して学年を超えた交流が自然に行われるようになってきた。

4 これまでの成果と考えられること

小・中連携による「ふれあい宣言」の策定に向けての学級アンケートや話し合い活動は、明るく楽しい学校について児童一人一人が考えるきっかけとなった。また、児童生徒会議は学校の枠を超えた取組であり、中学校にもつながる宣言であることを意識することができた。

児童の考えを生かした新しい企画により、友達との交流を楽しみにする児童が多くなり、児童相互の良好な人間関係づくりに役立っている。

5 今後の課題

「天王地区ふれあい宣言（案）」を一人一人が意識し実行していくための児童の自発的・主体的な取組、保護者への周知等について今後検討が必要である。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|
| 学 校 名 | 美郷町立仙南小学校 | 児童生徒数 | 329人 | 学級数 | 16 |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|

1 活動名 思いやりの木（気）を育てよう

2 活動の趣旨

- ・ いじめゼロ宣言パネル（思いやりの気(木)）を活用することを通して、いじめは絶対いけないという意識を高めたり、自己有用感を高めたりする。
- ・ あいさつを奨励することで、友達の輪を広げ、いじめの起こらない土台をつくる。
- ・ 花を大切に育てることで、思いやりの心を育てる。

3 活動の概要

- ・ 4月、いじめゼロ標語を一人一人が考え、学級内で紹介し合い、各学級の標語を作った。そして、代表委員会にもちより、今年度作成のいじめゼロ宣言パネルに掲げる言葉を「思いやりと笑顔がたくさんつまった思いやりの木(気)」と決めた。
- ・ 春、環境委員会が、校舎前の花壇に花を植えた。また、全校児童がペアになってプランターに花を植えた。花を大事に育てることにより、思いやりの心の醸成を図っていく。
- ・ 運営委員会が中心となって「あいさつ運動」を行っている。6・9・10月は運営委員が玄関前でのあいさつ運動に取り組んだ。7月は、あいさつの一人一人のがんばりを学級ごとに集計し、特にがんばっている学級を毎日放送で紹介した。
- ・ 10月からいじめゼロ宣言パネルの活用が始まっている。まず6年生が学級で考えたいじめゼロ標語とクラス写真を掲示している。今後、5年生から1年生へと順番に掲示していく。
- ・ 10月、いじめゼロ集会を開いて、全校児童329人でいじめのない学校づくりに取り組んでいくことを確認した。



【思いやりの木（気）】

いじめゼロ集会プログラム

1. はじめの言葉
2. 歌「エール」
3. いじめゼロ標語発表(全学級)
4. 詩の朗読(6年生の代表者)
5. いじめに関する書籍の紹介(図書委員会)
6. 感想発表(4・5・6年代表各一人)
7. 終わりの言葉

4 これまでの成果と考えられること

- ・ いじめゼロ標語を作る活動やいじめゼロ集会を通して、いじめとはどんな行為のことをいうのか、どんな気持ちで過ごすといじめのない学校をつくることのできるのかを考えることができた。
- ・ 開校時（4月）には、あいさつをしても返ってこなかったり、下を向いたままの小さい声でのあいさつであったりしたが、表情よく元気な声であいさつできる児童が多くなっている。
- ・ プランターの花をペアの友達と大切にしている態度が見られる。花の成長と同時にペアの交流もみられる。

5 今後の課題

- ・ 作成した「思いやりの木(気)」をどのように活用していくか。全校児童が書く・読む・見る・喜ぶ・考える等の関わりがもてる活用方法を更に探っていきたい。
- ・ 子どもたちがあいさつに主体的に取り組めるよう、どのようなしかけをしていくか。意欲的にあいさつ運動に取り組めるよう、運営委員のアイデアを生かしながら根気強く支援していきたい。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|---------|-----|---|
| 学 校 名 | 大館市立東館小学校 | 児童生徒数 | 1 2 5 人 | 学級数 | 8 |
|-------|-----------|-------|---------|-----|---|

1 活動名 心のかけ橋集会Ⅰ「東小っ子フェスティバル」

2 活動の趣旨

縦割り班で協力しながら活動を楽しむことで、連帯感や仲間意識を高めるとともに、助け合うことのよさを実感させることで、いじめの未然防止につなげる。

3 活動の概要

- (1) 活動の時期 6月中旬
(2) 参加児童生徒 全校児童125名
(3) 活動の内容

全校児童125名が23の縦割り班に分かれ、班ごとに協力してゲームに参加する。

前半は、縦割り班の奇数班がゲームを楽しみ、偶数班が各教室で自学年のゲームコーナーを担当する。後半は、役割を交代する。前半後半は、それぞれ23分間で、間に4分間の入れ替え時間を設けている。

ゲームに参加する班は、カードを持ち、ゲームコーナーが用意された各教室を回り、活動を楽しむ。また、ゲームの結果に応じてシールをもらう。カードには、事前に回る順番を明記し、混雑しないように工夫している。

ゲームの内容は、1～6年生による縦割り班の全員が参加できるものとし、ルールも簡単明瞭にしている。今年度は、「ボウリング」、「まと当て」、「はなまるをさがそう」、「ふうせんわくわく」などが用意された。

ゲーム終了後は、全校児童が体育館に集合し、縦割り班ごとに整列する。児童会運営委員の司会進行により、成績発表や感想発表が行われる。感想発表では、全校のみんなに自分の考えを聞いてもらおうと、たくさんの児童が進んで挙手、発表した。

また、この児童集会には、例年、居住地交流として比内養護学校の児童が来校し、本校児童と交流している。




【協力して息をふきつけボールころがし】

4 これまでの成果と考えられること

- ・縦割り班で協力しながら活動を楽しむことで、各縦割り班のメンバーの連帯感や仲間意識を高めるとともに、絆をより深めることができた。
- ・縦割り班で協力しながらゲームに挑戦することで、助け合うことのよさを実感させることができた。
- ・集会終了後、他の縦割り活動や学級活動、全校活動等において、協力したり、助け合ったりする場面が、集会実施前より多数見られるようになった。

5 今後の課題

- ・縦割り班活動を取り入れた児童集会活動を通して、児童一人一人の心の中に、全校の児童が自分の友達である、みんな仲間であるという意識を更に醸成すること。
- ・縦割り班活動を取り入れた児童集会活動を通して、児童一人一人の心の中に、全校の児童がかげがえのない存在であるという意識を更に醸成すること。

| | | | | | |
|--------------------------|--|---|-----|-----|---|
| 学校名 | 男鹿市立五里合小学校 | 児童生徒数 | 43人 | 学級数 | 5 |
| 1 活動名 | コミュニケーション能力を育む集会活動と居場所づくり・絆づくりのためのなかよし班活動 | | | | |
| 2 活動の趣旨 | 学校生活を全ての子どもにとって有意義で充実したものにするために、積極的な生徒指導を推進する。 | | | | |
| 3 活動の概要 | <p>(1) 集会活動 児童集会や表現集会、音読集会では、司会を務める高学年児童が、感想発表の場で全校児童を対象にインタビューをしてそれに答えたり、司会が切り返して応答したりしている。このような場面を意図的に設定することで、児童に自己決定の場を与え共感的人間関係を育んだり、コミュニケーション能力を育成したりすることに役立てている。</p> <p>①入学おめでとう集会（4/26） 1年生の入学を全校でお祝いし、1年生に学校は楽しいという気持ちをもってもらい、新しい仲間づくりを進めた。</p> <p>②なかよし集会（5/28） プロジェクト委員会が企画・運営した学校に関する〇×クイズを、全校で楽しんだ。</p> <p>③表現集会（5/31） 1・3・5年と2・4・6年に分かれてお互いの歌声を聴き合い感想を述べ合った後、全校で美しいハーモニーを響かせた。</p> <p>④音読集会（10/23） 1年生7名が、全校に「みなさんの秋はどんな秋ですか？」と呼びかけた後、「たのしい秋」という詩を音読した。他の学年は、1年生ががんばったお礼として、よかったところや工夫していたところなどの感想を返してあげていた。</p> | | | | |
| |  | <p>司) 元気な発表でしたね。では、感想やアドバイスを発表する人は手を挙げてください。</p> <p>A) たくさんの秋を表現していたのでおもしろかったです。</p> <p>司) 今、Aさんは～と言いましたが、発表したBさんはどう思いますか。</p> <p>B) ぼくも発表していて楽しかったです。思い出に残しておきたいです。</p> <p>C) 一人で言うところや、全員で言うところがあって、工夫していたと思います。</p> <p>D) 大きな声で聞きやすく、とてもよかったです。</p> <p>司) みんなが笑顔で聞くことができる音読でしたね。</p> | | | |
| | <p>(2) なかよし班活動 43名の全校児童を五つ（場合によっては10）の縦割り班に編成して「なかよし班」とし、一人一人の居場所づくり、全員の絆づくりのための活動を行っている。</p> <p>①なかよし清掃（毎週水曜日） 学年ごとに役割分担を決め、協力して体育館と特別教室を隔週で清掃している。</p> <p>②花壇苗植え（6/7） 美しく変わっていく校庭の様子に気付き、生き物を大切にしていこうとする気持ちをもてるように、自分たちの手で花を植えた。</p> <p>③なかよし給食（7/18） 班の絆を深めるために、和やかな雰囲気の中で楽しく会食した。</p> <p>④ウォークラリー（6/27） 10の縦割り班に分かれ、地域のよさを発見するネイチャーゲームに挑戦した。異学年が仲よく歩き、各チェックポイントやフィールドビンゴの問題を解きながら、ゴールを目指した。一番の発見は、五里合の景色のすばらしさを改めて知ることができたことだった。</p> | | | | |
| | | | | |  |
| 4 これまでの成果と考えられること | <ul style="list-style-type: none"> 他学年の発表を一生懸命聞き合うことで、お互いのよさを認め合ったり友達の考えをしっかり聞いたりしようという意識が高まった。 お互いのことをよく知って良好な友達関係を築き、上級生は下級生の面倒を見て思いやりの心の大切さを、下級生は上級生をお手本として協力することの大切さを学んでいる。 | | | | |
| 5 今後の課題 | <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは、素朴で素直だが人前で話すことがまだまだ苦手なところが見られる。公の場で、自分の思いや考えを分かりやすく伝える表現力を、教育課程全般を通じて鍛えていきたい。 小規模校のよさを生かしアットホーム的な雰囲気だが、小さなトラブルがないわけではない。全教職員の情報を共有して一人一人の実態把握に努め、適切な支援ができるようにしていきたい。 | | | | |

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|
| 学 校 名 | 横手市立増田小学校 | 児童生徒数 | 322人 | 学級数 | 15 |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|

1 活動名

ちくちく言葉をなくし、ふわふわ言葉に！ やさしい言葉を使おう集会！！

2 活動の趣旨

- ・児童会を中心に全校であいさつ運動に取り組んできており、本校独自の「ことば委員会」が主体となり、あいさつを含めやさしい言葉づかいを広める。
- ・全校のみんなが相手意識をもって優しくすてきな言葉を使えるようにする。
- ・自分が言われていやな言葉は使わないことを確認する。
- ・異学年の交流の場「縦割りのファミリー活動」においても、学年の垣根を超えて正しい言葉づかいができるようにする。
- ・児童の主体的活動を通じ、あいさつや言葉づかいを向上させ、よりよい人間関係を築かせる。

3 活動の概要

期日：7月9日 全校朝会時にことば委員会が実施



ことば委員によって、同じ場面でも言葉によって受ける印象が違うことを寸劇を交え全校児童に伝えている。日常の一コマを寸劇にし、低学年にも分かりやすくしている場面

日頃よく使っていそうな心にちくちく刺さるような言葉や、心をほっこり温かくしてくれるふわふわ言葉を示し、一人一人に自分の言葉づかいについて考えさせている場面

4 これまでの成果と考えられること

「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」の定義が児童に浸透し、「今のは・・・」とお互いに注意し合ったり、言葉を途中で言い直したりする等の場面が、学校生活の中で多く見られるようになってきた。また、ありがたうやすみませんなどといった言葉が自然に出せる子も増えてきた。子ども伝いに保護者にも、ちくちく言葉ふわふわ言葉の話が伝わり、保護者が子どもに「それはちくちく言葉でしょ。」と話すなど、言葉づかいに対する意識が徐々に広まってきている。意識の広まりと共に、学校生活の中で優しい言葉が増えたり、相手を認める自然な拍手が出るようになったりするなど、全体的な雰囲気は良くなってきている。

5 今後の課題

依然として言葉の乱れや不適切な表現があり、トラブルの原因になったり、トラブルから言葉の乱れになったりすることも考えられる。児童を取り巻く言語環境や人間関係をよりよいものにするために、今後も家庭や地域と連携を図り、児童のよりよい育成を図っていく。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|
| 学 校 名 | 能代市立第四小学校 | 児童生徒数 | 571人 | 学級数 | 22 |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|

1 活動名 いじめを完全になくすため、クラスごとに「いじめ防止標語」を作ろう！

2 活動の趣旨

児童のいじめ防止に対する理解と認識を深め、児童が安心して学習その他の活動に取り組むことができるようにし、学校の内外を問わずいじめがなくなるようにする。

3 活動の概要

- ・活動は、通年で行われる。
- ・いじめについて児童一人一人に深く考えさせるための資料を、4月に生徒指導部から配付して全学級の教室背面に掲示する。
- ・いじめについての掲示物を基に各学級で標語を一つ作成する。(児童会運営委員会が主体となって企画した内容)
- ・作成に関しては、標語に使うべき言葉を学級会などで話し合っ決めて。
- ・作成する標語は一つだが、2枚作成し、1枚は全校の目に付く所、もう1枚は各教室のいじめについての掲示物付近に掲げ、常に意識できるようにする。



【教室内や校内に掲示】



【各クラスで標語を作成】

4 これまでの成果と考えられること

- ・3年生以上の全クラスが一つの標語を作成した。それぞれの児童が主体的に考え、話し合い、集約することで、新たにいじめに対する認識をもたせることができた。
- ・教室に標語を掲示することで、適時指導に生かすことができた。
- ・標語の内容が、児童の身の回りで起こり得る身近な内容のものが多かったため、実体験と重ね合わせていじめの問題を考えることができた。
- ・標語を作成して掲示するだけでなく、運営委員会が企画して月に一度定期的に行っている児童集会（あかしや集会）において、校長の話で紹介するなどして、全校児童でいじめ問題について考えることができた。

5 今後の課題

- ・掲示物や標語を使って適時指導できるよさはあるが、通年で掲示しているので、マンネリ化してしまう傾向がある。今後、児童が主体となって掲示物や標語等を活用する方法を工夫させる必要がある。
- ・標語作成だけでなく、いじめについて考えさせるためのアプローチの仕方は他にも多数ある。今回は、児童の主体的な考えによる活動であったが、教師の指導自体もマンネリ化しないようにしていきたい。一人一人の児童にとって、より効果的な内容を児童と共に考えて、今後も活動を続けていく必要がある。

【中学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|
| 学 校 名 | 潟上市立天王中学校 | 児童生徒数 | 300人 | 学級数 | 10 |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|

1 活動名 生徒総会での「天王中学校いじめゼロ宣言」の採択と、各学級の行動指針の策定

2 活動の趣旨

いじめの事例を基に、生徒会を中心とした全校生徒がいじめ防止に向けた行動宣言を採択するとともに、各学級で具体的な行動指針を話し合うことで、いじめ抑止に向けた意識を高める。

3 活動の概要

本活動は、生徒会を中心とした全校生徒参加による、いじめ問題の未然防止と根絶を目的とした取組である。核となる生徒総会での提案内容を基に、小グループでの話し合い活動や学級ごとの行動指針の策定活動を取り入れ、より多くの生徒に本活動への参加意識をもたせ、自分たちの手でいじめ問題に取り組み、解決しようとする意識を高めることを目的として活動計画を作成し、実施した。

○実施日 平成25年6月5日（水）

- 活動内容
- ① 生徒会執行部から「天王中学校いじめゼロ宣言」を提案する。
 - ② 各学級で小グループに分かれ、安心で安全な学級及び学校にするために「自分ができること、友達にしてほしいこと」と「自分がされて嫌なこと、学級・学校からなくしたいこと」を話し合う。
 - ③ 小グループで話し合った内容を基に、各学級での具体的な行動指針について話し合い、まとめる。
 - ④ 各学級のいじめ防止を目指した行動指針を、学級委員が全校に向け発表する。
 - ⑤ 全校生徒により「天王中学校いじめゼロ宣言」を採択し、署名する。

天王中学校いじめゼロ宣言

<いじている人へ>

- ・相手の嫌がる行為は、もうやめよう。
- ・相手が嫌がる言葉をかけるのは、もうやめよう。
- ・将来、取り返しのつかなくなることは、もうやめよう。

<いじめられている人へ>

- ・解決できないと、あきらめるのは、もうやめよう。
- ・イジメの怖さから逃げるのは、もうやめよう。
- ・たった一人で悩んでいるのは、もうやめよう。

<周りで見ている人たちへ>

- ・無関心でいるのは、もうやめよう。
- ・勇気のない行動は、もうやめよう。
- ・イジメを許す雰囲気をつくるのは、もうやめよう。



【各学級ごとに行動指針を話し合う】

4 これまでの成果と考えられること

生徒総会という全校での活動の中に、小グループでの話し合いや、学級ごとの行動指針の策定などの活動を取り入れることで、生徒一人一人が責任をもって活動に参加し、いじめの未然防止と根絶に向けた意識を高めることができた。

また、「天王中学校いじめゼロ宣言」の採択及び署名の活動を通して、「いじめは絶対に許されないことである」との共通意識を高めることで、いじめの未然防止につながっている。

5 今後の課題

全校生徒が採択した「天王中学校いじめゼロ宣言」や、各学級のいじめ防止を目指した行動指針策定への取組が一過性のもので終わらないように、定期的に評価したり、宣言や行動指針の内容について話し合ったりするなど、より実態に合ったプランにしていくことが必要である。

併せて、生徒同士が互いの存在や努力の跡を認め合うことができる、温かい人間関係の醸成を目指した活動（ありがとうの樹、学年MVP）を継続する必要がある。

| | | | | | |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|
| 学 校 名 | 美郷町立美郷中学校 | 児童生徒数 | 525人 | 学級数 | 20 |
|-------|-----------|-------|------|-----|----|

1 活動名 ～美郷中こころふれ合い充実プロジェクトより～「いじめゼロ集会」

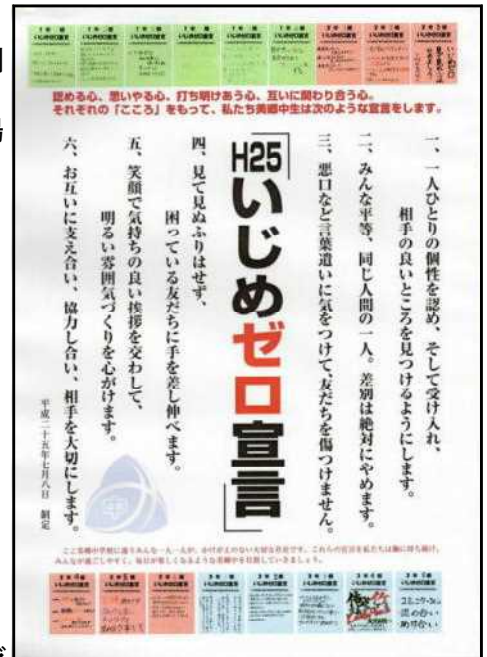
2 活動の趣旨

- 1) 生徒による企画・提案・運営を通して、自己決定の場を創出する。
- 2) 異学年間の交流を通して、共感的な人間関係を構築する場を設定する。
- 3) 「生きること」をテーマに、命を大切にすることを育てる。

- 「こころふれ合い充実プロジェクト」の主な内容
- ・生徒会の計画と運営による「いじめゼロ集会」の実施…年4回
 - ・ラジオ体操で地域おこし
 - ・一人一鉢運動
 - ・一心祭（学校祭）へのお年寄り招待
 - ・あいさつ運動強調月間（小・中連携）
 - ・独居老人宅除排雪ボランティア活動

3 活動の概要

- 1) 第1回いじめゼロ集会(6/28)
 - ・「いじめ」に対する自分なりの考えをもち、よりよい人間関係を築いていくための具体的な行動について考え合う。
 - ・集会後のハート学活で、学級ごとに「いじめゼロ宣言」を話し合う。
- 2) 第2回いじめゼロ集会(7/8)
 - ・第1回後で決定した学級ごとの宣言を基に、全校の「いじめゼロ宣言」を採択する。(図-1)
- 3) 第3回いじめゼロ集会(11/10)
 - ・その道一筋に生きている先輩と「生きる」をテーマに意見交換する。「校歌作詞者 詩人:谷川俊太郎さんと語る会」
- 2) 第4回いじめゼロ集会(2月開催予定)
 - ・「いじめゼロ宣言」の評価と改善について



[図-1 いじめゼロ宣言]



[第2回いじめゼロ集会より]



[校歌作詞者 谷川俊太郎さんと語る会]

4 これまでの成果と考えられること

- 1) 予防的対応、予防教育的対応が求められることについて、顕著な意識変化が認められた。
 - ・「学校いじめ自己診断表」の結果から（現2年生の1年時との比較）
 - 「いじめられる人も悪いところがあるのだから、しかたがない」
 - 「とても思う」「だいたい思う」…36.0%（県平均+10.7%）→27.3%（県平均-8.7%）
 - 「いじめられていたら助けてあげたい」
 - 「ぜんぜん思わない」「あまり思わない」…12.9%（県平均+5.4%）→4.5%（県平均-11.5%）
 - 「自分が間違っているときは直すようにする」
 - 「ぜんぜん思わない」「あまり思わない」…5.6%（県平均+2.8%）→1.1%（県平均-2.6%）
- 2) 第1回集会後に行われた、生徒一人一人の思いをハートの内外（内側は皆がうれしいこと・続けていきたいこと、外側はやめたいこと・いやなこと）に貼り付けていく「クラスハート学活」において、自分の付箋一枚一枚がクラスの宣言に結び付き、それが全校の「いじめゼロ宣言」に収斂していく流れを理解し、自己存在感・自己有用感を感じながら生き生きとした表情で活動する姿が見られた。

5 今後の課題

- 1) 傾向としては顕著な好転がみられたが、意識の低い生徒もまだ相当数いることが上記調査からうかがえる。「いじめのない風土づくり」と同時に、一人一人の実態を把握して個々に対応していく必要を感じている。
- 2) 教育的予防活動を通して「いじめのない風土づくり」に努めてきてはいるものの、思いやりのない言動や、インターネット上の書き込み等によるコミュニケーショントラブルの発生の絶無には至っていない。そこで、生命の尊重や集団生活の向上、情報モラルや社会参画に関わる道徳の時間の内容と特別活動との関連を図った指導計画を作成し、それぞれの学びや活動が一層充実するようにする。
- 3) 宣言等で表明した「目指す姿」の実践状況を生徒自らが把握し、気付き合い、さらに改善に向けた評価や取組につなげられるよう、評価や見直しも含め、引き続き「教育的予防」にいそしんでいかなければならないと考える。

| | | | | | |
|-------|-------------|-------|-----|-----|---|
| 学 校 名 | 鹿角市立花輪第二中学校 | 児童生徒数 | 96人 | 学級数 | 4 |
|-------|-------------|-------|-----|-----|---|

1 活動名

学校をよりよく!!「ちょこボラ運動」

2 活動の趣旨

花輪第二中学校生徒会ではボランティア精神を高めるために、長年、「あいさつ運動」「アルミ缶・ペットボトルキャップ回収」「夏・秋・冬の地域ボランティア活動」「独居老人宅への年賀状発送」等に取り組んできた。

新年度の学校の合い言葉である“進んで”を実現するために、自分たちの手で新しい取組ができないかを生徒会書記局で話し合った。その結果、これまでの活動に加えて、人の助けになることや誰かの役に立つことを身の回りの小さなことから始める活動を「ちょこボラ（ちょこっとボランティア）運動」と名付け、実施することとした。

この活動を、ボランティア精神や自己有用感・自尊感情の向上、良好な人間関係づくりやよりよい学校生活につなげ、いじめ防止活動の一助とする。

3 活動の概要

(1) 活動時期 随時（日常の生活で） 9月以降計画的に（書記局企画）

(2) 活動内容

- ・ 特別に準備をすることなく、人の助けになることや誰かの役に立つことを日常生活の中で進んで行う。例えば、誰かに言われなくても、落ちてるゴミを拾って捨てる、空き教室の電気を消す、開いている窓を閉める、はがれている掲示物を画鋏で留める等（日常の生活で）。
- ・ 有志を募って学校生活をよりよくする活動を進んで行う。例えば、「日常の清掃で手が届かない場所の清掃や校地内のゴミ拾い等をみんなの力で」（書記局企画）。

(3) 活動の実際 第1回「ちょこボラ運動」（書記局企画）

・ 実施日 平成25年9月27日（金）

・ 活 動 体育館の清掃
窓ぶち、体育館裏通路、用具室
ギャラリー、フロアー等

・ 参加募集 生徒会便りで活動について周知し、参加者を募集

・ 参加者 参加希望があった生徒（42名）

・ 時 間 放課後（16:20～17:00）

・ 教師の支援 企画時・活動時とも生徒の自主性を尊重し助言を求められたときのみ必要最小限の助言を行う。活動時には共に活動する。



【普段手の届かない場所の清掃】

4 これまでの成果と考えられること

第1回「ちょこボラ運動」では、やらされている活動ではなく、自発的な活動であったため、参加した生徒が自分から仕事を探すなど“進んで”活動していた。また、自分の場所が終わった生徒は他の生徒を手伝うなど、普段関わりが薄い生徒同士が協力して行うことで、人間関係の深まりや新しい人間関係の構築が見られた。活動終了後の生徒たちの表情は達成感や成就感に満ち、企画した書記局は、自分たちの新たな企画を成し遂げた満足感を味わい、次の活動への意欲と考えが高まっていた。事後の調査では、今回は参加できなかったが次回は参加すると答えた生徒が多く、今回参加した生徒は次回も参加すると答えた生徒がほとんどであり、日常的なボランティアの大切さに気付いた生徒が増えた。

5 今後の課題

書記局企画の活動を年間にわたり、より計画的に実践できるようにするとともに、特に、日常の生活での活動が活発になるように働きかけ、ボランティア活動の日常化を図りたい。生徒の発案で、今年度から始めたこの活動を、本校の新たな伝統となる活動に高めることでいじめ防止につなげたい。

| | | | | | |
|-------|--------------------------|-----|--------------|-----|----------|
| 学 校 名 | 横手市立横手南中学校 横手市立横手北中学校 | 生徒数 | 520人 306人 | 学級数 | 19 13 |
|-------|--------------------------|-----|--------------|-----|----------|

1 活動名 Y8サミット「心を開こう運動 ～快適な学校生活を創るために～」

2 活動の趣旨

◎両校の生徒会執行部が呼びかけることで、いじめに係る取組を横手市内8校の活動として広げていく。

3 活動の概要

〔活動時期〕 7月17日 準備委員会①（横手南中学校・横手北中学校生徒会執行部）
8月26日 準備委員会②（横手南中学校・横手北中学校生徒会執行部）
8月27日 「Y8サミット」会議開催
9月～ 「Y8サミット」会議を受けて各中学校で活動

〔参加生徒〕 横手市内8中学校
（横手南・横手北・増田・平鹿・横手明峰・
十文字・山内・横手明峰・横手清陵学院）
生徒会会長・副会長各校3名、合計24名

〔活動内容〕 Y8サミット

（ねらい） 各校生徒会の意見交換から、いじめ撲滅につながる「学校快適生活の創造」の手立てを協議し、共通実践を呼びかける。

（内 容） 1 開会のあいさつ

「横手南中・横手北中生徒会交流から」横手南中生徒会長

2 自己紹介

3 議事 （1）学校生活で起きた出来事（各校から事例をあげて情報を共有）
（2）問題の解決に向けた取組（解決への手段や前向きな考えの交換）
（3）まとめ（市内の学校が一斉に取り組むこと）

4 閉会のあいさつ 「Y8サミットの意義」 横手北中生徒会長

（まとめ） ○ 「心を開こう」運動を各校でPRしていく。

・ポスターを各校で作成・展示する。（学校祭など）

・運動を呼びかけるバッジを作成し、市内全中学生に配付する。

○ 今回の提案以外でもよいと思ったことはどんどん実践し紹介し合うなど、新しい試みにも積極的にチャレンジする。



【サミットであいさつする横手北中生徒会長】

4 これまでの成果と考えられること

- いじめに限らず交友関係に関する各校の実情や取組を生徒の目線で紹介し合うことで、悩みや課題を共有するとともに、解決に向けた建設的なアドバイスをし合うことができた。
- 市内8中学校の生徒会執行部が集まり情報交換したことで、連帯感が醸成され、生徒会活動全般の活性化につながった。また、市内の中学校が生徒会活動に限らず、さまざまな交流をして切磋琢磨していく基盤ができた。
- 横手市教育委員会の協力でバッジを作成し、市内全中学生に配付できた。活動が一つの形になったことで、成就感や達成感が得られ、さらなる活動のエネルギーとなった。

5 今後の課題

- Y8サミットでの協議内容を、自校の生徒会活動を通して全校生徒に還元し、いじめ撲滅運動やその基盤となる人間関係づくりを一層推進していく。
- 単発的な活動で終わらず、今後もテーマ設定を工夫しながら、Y8サミット開催を通して市内各中学校の生徒会の交流を促進していく。

| | | | | | |
|-------|------------|-------|------|-----|---|
| 学 校 名 | 北秋田市立森吉中学校 | 児童生徒数 | 146人 | 学級数 | 6 |
|-------|------------|-------|------|-----|---|

1 活動名 「いじめ」の定義をみんなで考えよう！

2 活動の趣旨

「いじめ防止対策推進法」（以下、「いじめ防止法」）が施行されたことを受け、普段、学校生活の中で何気なく友達に発している言葉や態度・行動を振り返り、それが法律上いじめに当たるかそうでないかを共に 考え、「いじめ」についての問題意識を高め、自分たちの学校生活をよりよいものにする。

3 活動の概要 「全校集会」

(1)実施日・・・平成25年6月21日（金）

(2)主催・・・生徒会執行部

(3)対象・・・全校生徒

(4)活動内容

①生徒会長からの趣旨説明

②生徒会執行部による寸劇

- ・登校時の友達同士の会話
- ・授業中の言葉のやりとり
- ・掃除のときの役割分担における一コマ
- ・部活動時における先輩と後輩の会話



【寸劇の一場面】



【「いじめなくそう」宣言
生徒会副会長より】

事前に、生徒会執行部と生徒指導主事の先生が話し合い、「いじめ防止法」と照らし合わせながら、実生活において、いじめになるかならないかの判断がつきにくい場面を設定した寸劇を全校生徒に提示した。

③各場面で、いじめに当たるかどうかの話合い（意見交換）

④生徒指導主事から「いじめ防止法」についての解説と寸劇の場面についての解説

⑤生徒会副会長からの「いじめをなくし、学校生活を充実したものにしよう」宣言

4 これまでの成果と考えられること

普段何気なく使っている言葉や態度・行動が、法律上は「いじめ」に相当することもあるということを改めて振り返るよい機会となった。寸劇に関しては、事前に打合せをし、実際にあったような場面をリアルに表現したので、全校生徒が本音で話し合う場面を見ることができた。

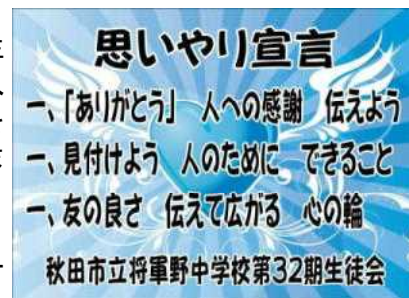
また、生徒指導主事による「いじめ防止法」の解説が寸劇と関連付けた分かりやすい説明であり、生徒にとって理解しやすいものとなった。

毎月実施している学校生活の「ふりかえりアンケート」にも、例えば、友達のことを思いやった内容が多くなるなど、全校集会を実施したことによる波及効果が表れている。

5 今後の課題

今回の全校集会は、時期・内容ともタイムリーであった。生徒の意識も変わったのは間違いないが、問題は、継続した取組である。時が経てば意識が薄れてしまう傾向があるので、生徒会執行部をはじめ、各種委員会の積極的な活動とともに、「互いを思いやる心」を大切にして諸活動を推進していくことが、「いじめのない学校」づくりのポイントになると考える。

| 学 校 名 | 秋田市立将軍野中学校 | 生徒数 | 374人 | 学級数 | 13 |
|-------------------|---|-----|------|-----|----|
| 1 活動名 | いじめ防止 Love&Peaceプロジェクト | | | | |
| 2 活動の趣旨 | <p>平成25年度の秋田市中学生サミットのテーマは「いじめ防止 Love&Peaceプロジェクト」である。このことを踏まえ、本校では生徒会を中心に、いじめのない学校づくりを目指し、「Love&Peaceプロジェクト」として独自の活動を推進してきた。</p> | | | | |
| 3 活動の概要 | <p>(1) 6月……アンケート実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート項目は、生徒指導部が定期的実施する「生活アンケート」を基に、生徒会執行部の意見を取り入れながら作成した。具体的に、「友達からどんな言葉を言われた時や行動をされた時に嬉しい気持ちになりますか」などの項目を設けた。 <p>(2) 7月……アンケート結果を受けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会便りと生徒会コーナーの掲示を通して、アンケート結果を報告するとともに、いじめのない学校づくりを呼びかけた。 ・生徒から出された「友達からされると嬉しいこと」を生徒会コーナーに掲示した。 ・「友達からされると嬉しいこと」のベスト3を基に、「思いやり宣言」を制定した。 ・「思いやり宣言」を各学級と生徒会コーナーに掲示した。 <p>(3) 9月……輝流WAVE（学校祭）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「いじめをなくすために私が取り組むこと」を全校生徒一人一人がハート型のカードに記入した。記入の際は、「気持ち」などの目に見えないものではなく、行動として表せること、「……しない」というマイナス表現ではなく、「……する」というプラス表現にするように呼びかけた。 ・ハートのカードを集め、巨大なハートにし、開祭式で披露するとともに、保護者や地域の方に公開した。 ・「Love&Peaceスタンプラリー」を企画した。スタンプ設置箇所で、「思いやり宣言」や良好な人間関係づくりに関連する格言をクイズとして出題し、スタンプをすべて集めた来場者に「思いやり宣言」のカードをプレゼントした。 <p>(4) 9月……秋田市中学生サミット共通の活動として、メッセージカードの記入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の「思いやり宣言」のひとつである『「ありがとう」人への感謝伝えよう』とリンクさせ、自分を嬉しい気持ちにさせてくれた言葉や行動に対する感謝の言葉を記入した。 ・10月の秋田市中学生サミットで展示後、本校の生徒会コーナーに掲示した。 | | | | |
| 4 これまでの成果と考えられること | <p>他人を嫌な気持ちにさせず、嬉しい気持ちにさせることを積極的に行っていくことが大切であると考え、活動を企画してきた。特に、「いじめをなくすために私が取り組むこと」のカードを記入する際に、プラスの表現を考えることができ、積極的な行動を意識する生徒が増えた。また、互いを認め合う好意的な言葉が増えてきている。</p> | | | | |
| 5 今後の課題 | <p>全校生徒のいじめ防止への意識を高めていくために、職員・生徒会が連携しながら活動を継続していく必要がある。今後は、友達のよいところを見付ける活動を企画していきたい。</p> | | | | |



【教室に掲げた「思いやり宣言」】



輝流WAVE開祭式

【全校生徒のカードを集めた巨大ハート】

【高等学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

- 一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。
- 二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。
- 三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。
- 四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。
- 五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

| | | | | | |
|-------|------------|-----|------|-----|----|
| 学 校 名 | 秋田県立秋田高等学校 | 生徒数 | 859人 | 学級数 | 22 |
|-------|------------|-----|------|-----|----|

1 活動名 **ピア・サポート活動**

2 活動の趣旨

- (1) 参加者が自己や他者を理解し、人間関係の問題解決やコミュニケーションスキル、ライフスキルを身に付けることによって、自身の生活や対人関係を豊かにする。
- (2) 生徒のリーダーシップを向上させ、対人スキル、ミディエーション（調停）などのような支援を学校全体に提供し、互いに思いやることのできる学校環境を構築する。

3 活動の概要

- (1) ピア・サポート・トレーニング
ピア・サポートに必要なスキルを身に付けるために、次のような内容のトレーニングを実施。（14コマ／1コマ50分）

| | |
|---------------------|---|
| 1日研修 5/18(土) 6コマ | ①自己紹介、オリエンテーション ②アイスブレーキング、協力・リーダーシップゲーム ③支援し合う関係作りゲーム ④プラス思考でものごとを考えるゲーム ⑤ピア・サポートとは何か(グループワーク) ⑥ピア・サポーターとしての資質(グループワーク) |
| 平日研修 5/22(水) 2コマ | ⑦トレーニングがどう使われるか ⑧気持ちを聞き取る |
| 平日研修 5/29(水) 2コマ | ⑨コミュニケーション・スキル ⑩支援スキルと注意を向けるときのスキル |
| 平日研修 6/5(水) 2コマ | ⑪問題解決モデルの紹介 ⑫傾聴スキル利用の練習(ロールプレイ) |
| 平日研修 6/19(水) 2コマ | ⑬限界設定、守秘義務、リファーマル ⑭個人プランニングとゴール設定 |

- (2) ピア・サポートグループ活動の展開：トレーニングを修了し、ピアサポーターとして活動を希望した生徒でグループを作り活動を展開。



【アイスブレーキング:声だけを頼りに】



【新入生向け部活動紹介企画】

- ①フォローアップ研修：サポーターとしてのスキルアップ研修（対立解消や相談場面を設定したロールプレイ）
身近な友人との交流内容についての意見交換など。
- ②企画活動：新入生向け少数部活動紹介、学校祭での広報活動など。
- ③専用ルーム「うぐいすルーム」を拠点とした活動：孤立気味の生徒との交流活動や悩みを抱えた生徒への支援活動など。

4 これまでの成果と考えられること

- (1) 保健室処置者数をピア・サポート活動開始前後の5年間で比較すると、外科的傷病者がほぼ横ばいであるのに対し、心因性不調者の割合は約80%減少している。
- (2) この活動を継続することで、ピア・サポート・トレーニング受講者が全学年に広がり、その日常的な実践（態度・姿勢）によって、他の生徒のメンタルヘルスも向上するという波及効果が報告されている。
- (3) 孤立気味な生徒との交流により、明るさを取り戻したとの具体的事案も報告されている。以上のことは、いじめを未然に予防するための基盤作りに大いに役立っているものと考えられる。

5 今後の課題

- (1) 人事異動などで指導担当者が変わっても活動が継続できるよう、より明確なシステムを構築することが必要である。
- (2) ピア・サポーターをもっと増やすことで、一層の活性化を図ることが必要である。
- (3) ピア・サポーターに対する他生徒の反発等（ピア・プレッシャー）は必ずあるものと考え、指導者のみならず全職員で取組に関心をもつことが必要である。

| | | | | | |
|-------|-------------|-----|------|-----|---|
| 学 校 名 | 秋田県立雄物川高等学校 | 生徒数 | 343人 | 学級数 | 9 |
|-------|-------------|-----|------|-----|---|

1 活動名

～心を育てる活動「パスカルタイム」から～ いじめを予防する主な生徒主導の取組

2 活動の趣旨

パスカルタイムの主な達成目標

次の目標を達成することで、自己肯定感を高め、自己実現に向かう雄高生を育てる。

- (1) ふれあいを通じた、多面的な自己発見を促進する。
- (2) 社会で通用する大人（人間）になるための考えと行動を身に付ける。
- (3) 心身の自己管理の仕方を身に付けさせる。
- (4) 世界内存在（多くの人に支えられていること）を自覚し、感謝と思いやりの心を育む。

3 活動の概要

- (1) 「スクールアイデンティティー集会」（4月・全校）
生徒会主導で雄物川高校生としての自覚をもち、学校生活が円滑にできるよう配慮した活動。2、3年生が中心となり、雄物川校内マナーやルールを分かりやすく紹介する寸劇を発表し、仲間意識を高めさせる。
 - (2) オリエンテーションSGE「初めての出会いを大切に」（4月・1年）
体育館でクラス・学年のみんなとレクリエーション（グループエンカウンター）を行い、仲間意識を高め、新しい関係が円滑に行えるよう活動する。
 - (3) SGE「リレーションづくり」（4月・2年）
クラス替え後の同級生との良好な関係づくりと、新しい友人関係を築くためにクラス単位でレクリエーション活動を通して心と心のつながりを形成させることを目指して行う。
 - (4) 「朝のつどい」（月1回・全校）
運営の全てが生徒会主導で企画される。司会、集会整列、校歌指導、パブリックスピーチ（成功体験発表）などを実施。雄物川高校生としての自覚や責任、また他の生徒がどう思考し努力したかを知る。
 - (5) ライフスキル「アサーション」（6月・1、2年）
自分も相手も大切にコミュニケーション方法や言葉遣い、メールの文面についてクラス単位で学ぶ。
 - (6) SGE「コンセンサス」（6月・1年）
グループでの話し合いから協調性を意識し、同意による一つの考えを導き出しながら、集団の中での個人の振る舞いを学ぶ。
 - (7) SGE「私のヒューマンネットワーク」（9月・1年）
ワークシートを使い、身近で自分を支えてくれる人を振り返り、感謝する心を育てる。
 - (8) SGE「ミニ内観」（11月・全校）
ワークシートを使い、自分を支えてくれていた人についてお世話になったこと、迷惑を掛けたこと、お返ししたいことを考え感謝の心を育てる。
- ※SGE：Structured Group Encounter（構成的グループエンカウンター）の略



SGE「初めての出会いを大切に」の様子

4 これまでの成果と考えられること

いじめが起こる要因に、「集団生活に馴染めない、対人関係の不得手、表面的な薄い友人関係、自己肯定感がない」など自分や相手の気持ちに気付けない生徒が増加しており、些細な誤解やすれ違いなどからいじめに発展していることが多いと考えられる。

パスカルタイムでの主な活動のうち生徒主導で行われている(1)(4)では、学校（集団）生活が円滑に行えること、(2)(3)(6)では友人関係を良好に築き所属クラスが居心地のいい場所と感じられること、(5)(7)(8)では自己を見つめること、をねらいとしている。

この活動を通じて自分を見つめる心、他人を思いやる心が生まれ円満な友人関係が築けるようになり、いじめ等のトラブル防止につながっていると考えられる。

パスカルタイムを実施してから13年になるが、年々生徒事故件数や退学者数が減少し、近年ではほとんどなくなっている。

5 今後の課題

生徒間の対人関係が原因で起こるいじめに関しては、予防や早期発見の方法がほぼ確立され、対応の手法もマニュアル化されている。今後、家庭環境や地域との問題が根本にあるものや、スマートフォンなどによるSNS等が要因となっているいじめの予防について、PTAや関係機関との連携も併せて取り組んでいく必要がある。

「いじめを許さない文化」をつくる取組

秋田大学教育文化学部学校教育課程
発達教育講座 准教授 紺野 祐

学校でのいじめ問題に30年以上取り組んでいる社会学者の森田洋司によると、いじめは子どもたちが「四層構造」で関わりあう中で発生していると見られる（『いじめとは何か』中央公論新社、2010年）。いじめでは、いちばん内側に「被害者」である子ども、そのすぐまわりに直接的な「加害者」としての子ども（たち）が位置している。だが、いじめはこの当事者たちの間だけで起きているわけではない。当事者の子どもたちを取り囲むように、いじめをはやし立て、おもしろがって見ている「観衆」役の子どもたちがいる。さらに外側に、いじめに直接的・積極的には関わらず、それを見て見ぬふりをしている子どもたち、つまり「傍観者」のポジションがある。いじめとはこのように、ひとつの社会集団に属する成員の多くを構造的に巻き込んで成立するものなのである。

そもそも人間が複雑で密な社会集団を営み、その中でアイデンティティを獲得しながら生きる動物であるかぎり、いじめを根絶することはかなりの難問であると言わざるをえない。子どもであっても、人間ならではの社会的な生き方にそれぞれに関係している。学校の内側においても、直接の加害者となる子どもだけではなく観衆役や傍観者の子どもたちもまた、それぞれが当の社会集団の成員として独自のアイデンティティを獲得しつつ、あるいはそれを保ちながら生きているのだろう。

だがその一方で、森田は正当にも、傍観者がいじめに対して抑止的に働く「仲裁者」の立場にもなり得ることを指摘している。私たち人間は、自分が成員として属する社会集団を生き抜こうと利己的に行動するだけではない。社会集団を営みながら生きることに価値を認めるからこそ、他の成員に対して利他的(altruistic)にふるまうことも可能であるし、また現実的なのである。

いじめにおける仲裁者の存在は、平成24年の夏に世論を賑わせた、滋賀県大津市立中学校で起きたいじめ自殺事件でも確認された。被害生徒の周囲の生徒たちは、被害生徒が相当のいじめに遭っていたことを傍観者としての確に認知していたようである。そしてそのうち複数の生徒が、いじめの事実を教師たちに訴え、対応を求めるといった仲裁者の働きをしていたらしい。大津の事件の場合にはまだ残念なことに、そうした仲裁者としての生徒たちの声が教師と学校を動かすことはなかった。だが自身がいじめられるというリスクを背負いながら、それでも仲裁者として、他の成員に対するいじめを抑止しようと働きかける生徒たちは確かに実在したのである。

今般の国および秋田県が取り組むいじめ問題対策のポイントのうち、いじめの「未然防止」と「早期発見」についてカギを握るのは、以上のような（さしあたり）傍観者の立場にある子どもたちなのではないだろうか。この立場の子どもたちが、目の前で起きているいじめに際して暗黙のうちにそれを支持する傍観者で終わるのか、それとも仲裁者としていじめに抑止的に向き合うのかが重要である。そしてその際、子どもたちの意思決定に大きな影響を与えるのが、社会集団としての学級や学校が担う「文化」なのだろう。文化とは、一定の規範によって統制される、成員の行動様式の集合である。学級・学校の中で発生したいじめに直面する子どもたちの行動もまた、その学級・学校がいじめについてどのような文化をもつかで大きく左右されるはずである。

本「事例集」で各校から報告されているいじめ問題対策の試みは、以上のような意味で重要な意義をもつものばかりである。これらはまさに、学校の中に「いじめ防止の文化」（あるいは美郷中学校のように「いじめのない風土」と呼んでもよい）を醸成し、拡大し、継承する試みなのである。特に、対策の試みが子どもたちの自発性・積極性を尊重する児童会・生徒会活動での取組であることにより、当の文化を自分たちのものと捉える主体性が豊かに確保されていると言える。またそのゆえに、各校に固有の諸事情を反映した取組はそれぞれに自校生の共感を得るものとなっているはずである。各校ではこのような多様な取組を通じて、しかし一貫していじめを許さない文化、つまり子どもたちが観衆や単なる傍観者であることを是としないばかりか仲裁者として活動しやすい文化がつけられているにちがいない。

とはいえ、学級・学校の内側は子どもたちだけの問題ではない。教師もまた、学級や学校という社会集団を構成する成員なのである。したがって教師が、当の社会集団の一成員として子どもたちの自主的な活動をあたたかく支援することを通して、いじめ防止の文化に積極的に関わることも重要になる。たとえば、教師自身がどんないじめに際しても、いじめは人権を侵害する許されない行為なのだという確固たる信念と、被害を受けている子どもを徹底して守り抜くという態度を基盤とした仲裁者となることを子どもたちに表明すると同時に、仲裁者となる子どもたちをしっかりと支持する姿勢を明示することも求められるだろう。本「事例集」での各校の報告からは、教師・学校のそうした強い姿勢と思いが伝わってくる。その意味でも、今後本「事例集」が県内の多くの学校で活用されることを願わずにはいられない。



鹿角市立花輪第二中学校



能代市立第四小学校



美郷町立美郷中学校



潟上市立天王中学校



美郷町立仙南小学校



男鹿市立五里合小学校



横手市立増田小学校



秋田県立雄物川高等学校

